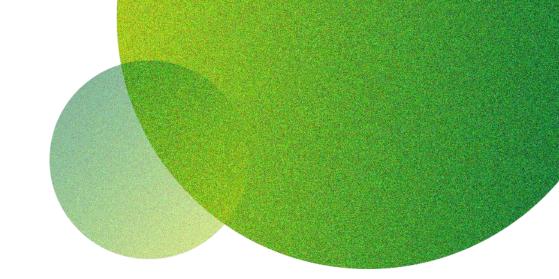




株式会社ラクト・ジャパン 2025年7月18日





INDEX

- 01 2025年11月期 中間期業績および通期業績予想
- 02 2025年11月期 事業の概況
- 03 乳原料・チーズ部門の利益拡大に向けた取組み



2025年11月期 中間期業績および 通期業績予想

2025年11月期 中間期 連結業績概要



中間連結会計期間の業績としては、売上高、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益ともに、過去最高を更新。全部門で前年同期の売上を上回り好調な業績進捗。一過性の収益(営業外)を除いても経常利益は過去最高益。

	2024.11期	₩₽₩₹₩		2025.11期 中間期	1
(単位:百万円)	中間期	期初予想	実績	前期比 (%)	期初予想比(%)
売上高	84,560	86,000	95,293	+12.7	+10.8
経常利益	2,260	2,300	3,832	+69.5	+66.7
経常利益率 (%)	2.7	2.7	4.0	_	_
経常利益に含まれる 為替影響額※	(△24)	_	(78)	_	_
為替影響額修正後 経常利益	(2,285)	_	(3,754)	(+64.2)	_
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,654	1,700	2,797	+69.1	+64.5
中間純利益率(%)	2.0	2.0	2.9	_	_
1株当たり中間純利益(円)	165.97	170.71	280.78		
為替レート(円/USD)	149.95	_	150.14		
為替レート(円/EUR)	162.47	_	161.27		

主な増減ポイント

①売上高:過去最高を更新

・全ての事業部門で前期実績および 期初計画を上回り連結ベースで二桁増収

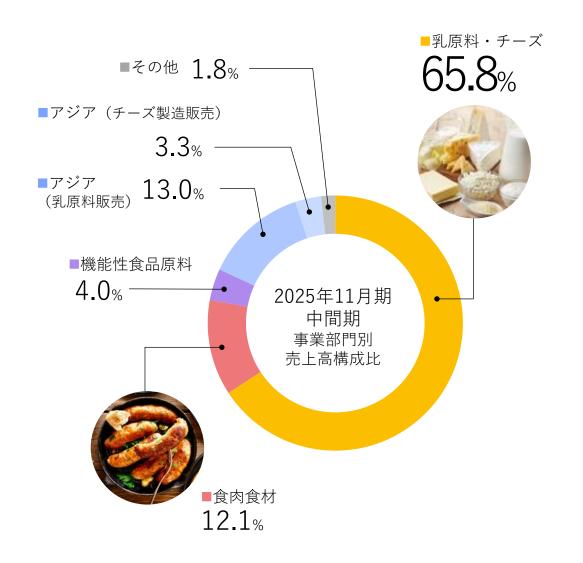
2経常利益:過去最高を更新

- ・国内の乳原料・チーズ部門、および アジア・チーズ製造販売部門で利益率 改善
- ・前期発生した一部商品の品質不良に 関わる補償金を営業外収益として計上

⁽注) 財務数値の表示は端数切捨て、増減率は四捨五入しております。

2025年11月期 中間期 事業部門別売上高および販売数量(前期比)

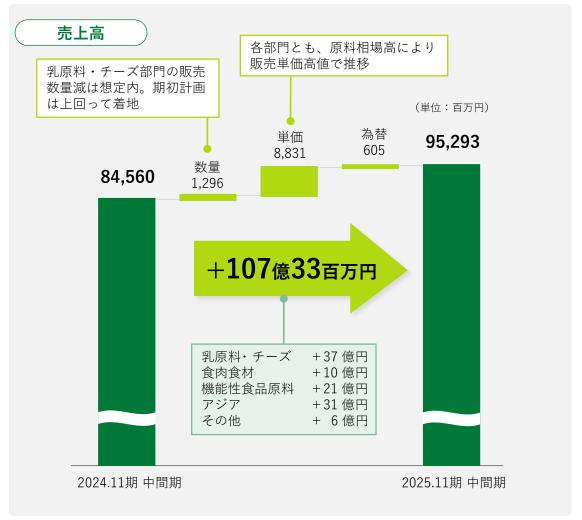


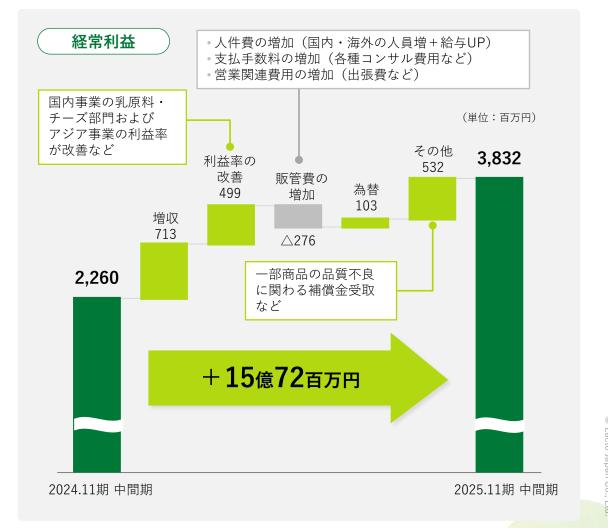


乳原料・チー	ーズ部門		
売 上 高販売数量	62,686 _{百万円} 86,799トン	前期比	6.4 %增 4.7 %減
食肉食材部	門		
売 上 高 販売数量	11,560 _{百万円} 16,180 _{トン}	前期比	9.7 %增 2.1 %增
機能性食品原	原料部門		
売 上 高 販売数量	3,779 _{百万円} 3,044トン	前期比	134.9 %增 140.1 %增
アジア事業	(乳原料販売部門)		
売 上 高 販売数量	12,418 _{百万円} 20,678トン	前期比前期比	27.6 %增 11.7 %增
アジア事業	(チーズ製造販売部門)		
売 上 高販売数量	3,142 _{百万円} 2,826トン	前期比前期比	17.3 %增 11.4 %增
その他			
売 上 高	1,706 百万円	前期比	59.6%增

売上高および経常利益の増減要因(前期比)

- Lacto Japan
- 売上高:販売数量は乳原料・チーズ部門以外は前期実績を上回り増加。原料相場高により販売単価は高値で推移し増収
- 経常利益: 増収効果に加えて、乳原料・チーズ部門とアジア・チーズ製造販売部門の利益率改善が増益に寄与





連結貸借対照表



(単位:百万円)	2024.11月末	2025.5月末	増減額	
流動資産合計	75,826	86,900	11,073	
現金及び預金	9,076	10,359	1,282	
受取手形及び売掛金	24,028	28,523	4,494	POIN 1
棚卸資産	42,119	46,528	4,408	POIN 2
流動資産その他	601	1,489	888	
固定資産合計	5,608	6,001	392	
有形固定資産	2,502	2,554	52	_
無形固定資産	321	728	407	_
投資その他の資産	2,785	2,717	△67	
資産合計	81,435	92,901	11,466	
買掛金	17,212	16,766	△445	
有利子負債	33,435	43,669	10,234	POIN'
負債その他	3,206	3,040	△166	
負債合計	53,853	63,475	9,621	
純資産合計	27,581	29,426	1,845	
負債純資産合計	81,435	92,901	11,466	

主な増減ポイント

受取手形及び売掛金/棚卸資産の増加

②国内の乳原料販売および機能性食品 原料販売、食肉販売の売上・契約数量 の増加

有利子負債の増加

③運転資金の増加に伴う借入金の増加

(財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載)

(注) 当社の棚卸資産は原則、販売に紐づいており、当社は自社で在庫を抱えるリスクは負っておりません。

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位:百万円)	2025.11期 第 2 四半期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,846	POIN
投資活動によるキャッシュ・フロー	△546	POIN 2
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,718	POIN
現金及び現金同等物に係る換算差額	△68	
現金及び現金同等物の増減額	1,256	
現金及び現金同等物の期首残高	8,520	
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,776	

主な増減ポイント

営業CF

取引増加に伴う運転資本(売上債権・棚卸資産)の増加

投資CF

②アジア新工場の建設関連投資、基幹システムの入替えに関連した投資など

財務CF

3運転資金の増加に伴う借入金の増加

2025年11月期 通期連結業績予想の修正



● 中間連結会計期間の業績進捗および足元の受注動向を勘案し、7月9日に通期業績予想と期末配当予想を上方修正。通期も過去最高益を目指す。

				2025	.11期	
(単位:百万円)		実績	期初予想	修正予想	前期比増	前期比 (%)
売上高		170,907	180,000	188,000	+17,092	+10.0
経常利益		4,320	4,600	6,000	+1,679	+38.9
経常利益率(%)		2.5	2.6	3.2	_	_
親会社株主に帰属する 当期純利益		3,146	3,300	4,350	+1,203	+38.3
当期純利益率(%)		1.8	1.8	2.3	_	_
1株当たり当期純利益(円)		315.83	331.38	436.47	+120.64	
1株当たり配当金(円)	年額	80.00	100.00	132.00	+52.00	
	中間	31.00	50.00	50.00	+19.00	
	期末	49.00	50.00	82.00	+33.00	

業績予想の前提

①機能性食品原料およびアジア・チーズは 引き続き堅調な業績推移を想定。

乳原料・チーズでは、最終製品の値上げの 継続により販売数量の伸びは鈍化を想定。 ただし、利益面では高付加価値商品の販売 増により前期比で増益を見込む。

- ②乳製品原料、食肉関連原料ともに原料相場 は高止まりを想定。
- 3業績予想の修正に伴い期末配当予想も上方 修正。

「NEXT-LJ 2025」の進捗



- 上期の業績進捗および足元の受注動向などを総合的に勘案し、通期業績予想を上方修正
- 増益を見込み併せて配当も見直し。期初予想より32円増配し、配当性向は期初計画の30%超を維持する予定

	2023.11期	2024.11期	2025.11期	中期経	営計画「NEXT△LJ:	2025」
	(実績)	***	(予想) 7/9修正値	2023.11期 (計画)	2024.11期 (計画)	2025.11期 (計画)
連結売上高	1,583億円	1,709億円	1,880億円	1,600億円	1,800億円	2,000億円
連結経常利益	28.5億円	43.2億円	60億円	32億円	36億円	40億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	20.4億円	31.4億円	43.5億円	23億円	26億円	29億円

	2023.11期 (実績)	2024.11期 (実績)	2025.11期 (計画) 7/9修正値
ROE	8.7%	12.1%	-
1株当たり配当金 (中間/期末)	48円 (24円/24円)	80円 (31円/49円)	132円 (50円/82円)
配当性向	23.2%	25.3%	30.2%
連結自己資本比率	34.2%	33.8%	_

2025.11期 (計画) 中期計画目標	
10%以上	
-	
20~25%	
30~35%	

© Lacto Japan Co., L

部門別売上高

● 通期業績予想の修正とともに、前提となる各部門の売上高・販売数量の予想値も修正

(単位:百万円)		2024.1	1期		2025.11期		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	通期予想
乳原料・チーズ	28,124	30,807	28,577	26,672	30,653	32,032	120,700
前年同期比	1.9%	5.5%	8.4%	△7.0%	9.0%	4.0%	5.7%
食肉食材	5,111	5,427	5,801	5,447	5,024	6,535	25,200
前年同期比	25.8%	10.0%	31.3%	12.2%	△1.7%	20.4%	15.7%
機能性食品原料	744	863	1,408	2,124	1,744	2,035	8,100
前年同期比	19.1%	△10.1%	23.3%	78.8%	134.1%	135.6%	57.5%
アジア(乳原料販売)	4,207	5,523	5,727	6,125	6,064	6,353	24,000
前年同期比	△19.8%	3.9%	62.1%	27.0%	44.1%	15.0%	11.2%
アジア(チーズ製造販売)	1,264	1,414	1,460	1,454	1,639	1,503	6,500
前年同期比	16.3%	22.0%	19.0%	7.3%	29.6%	6.3%	16.2%
その他	267	801	642	905	858	847	3,600
前年同期比	111.9%	481.1%	233.9%	923.5%	221.4%	5.7%	37.6%
売上高合計	39,720	44,839	43,618	42,729	45,984	49,308	188,000
前年同期比	2.5%	7.5%	18.3%	4.2%	15.8%	10.0%	10.0%

(数値の表示は端数切捨て)

⁽注)2025.11期 通期予想の売上高合計には、連結調整額△100百万円が含まれています。また、通期予想は修正値です。

部門別販売数量



(単位:トン)		2024.13	1期			2025.11期	
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	通期予想
乳原料・チーズ	45,583	45,515	43,043	42,259	43,972	42,827	166,800
前年同期比	12.3%	1.7%	9.1%	△0.9%	△3.5%	△5.9%	△5.4%
食肉食材	7,766	8,076	8,302	7,685	6,993	9,187	35,100
前年同期比	29.3%	2.6%	19.3%	5.4%	△10.0%	13.8%	10.3%
機能性食品原料	584	683	1,170	1,761	1,293	1,750	6,600
前年同期比	42.7%	△5.4%	58.9%	87.7%	121.4%	156.1%	57.2%
アジア(乳原料販売)	8,286	10,232	10,352	10,857	9,830	10,848	39,600
前年同期比	△20.1%	△4.5%	62.0%	11.1%	18.6%	6.0%	△0.3%
アジア(チーズ製造販売)	1,228	1,307	1,353	1,532	1,444	1,382	5,900
前年同期比	6.4%	7.6%	15.5%	19.2%	17.5%	5.7%	8.8%

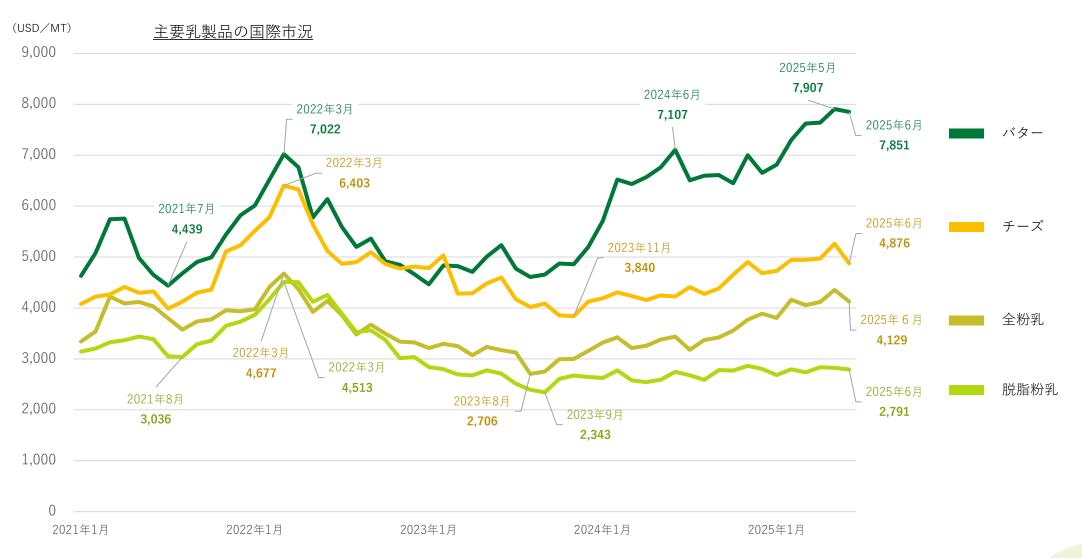
⁽数値の表示は端数切捨て)

⁽注)通期予想は修正値です。

(参考) 乳製品の国際市況

Lacto Japan

● 乳製品の国際市況は全体的に高値で推移



(出典) Global Dairy Trade より

(注) チーズ:チェダーチーズ

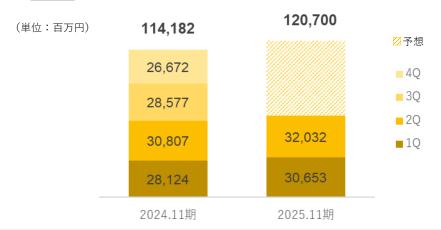


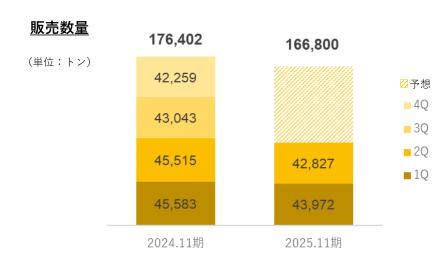




乳原料・チーズ部門

売上高





上期の事業概況

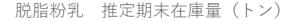
- ■乳製品相場は世界的に高値で推移
- ■拡大市場への販売を強化(付加価値の高い脂肪系乳原料、 高たんぱく原料の販売が増加。)
- ■高付加価値商品の販売増が収益アップに貢献
- ■顧客ニーズに合った仕入れを行い、チーズ販売シェア拡大

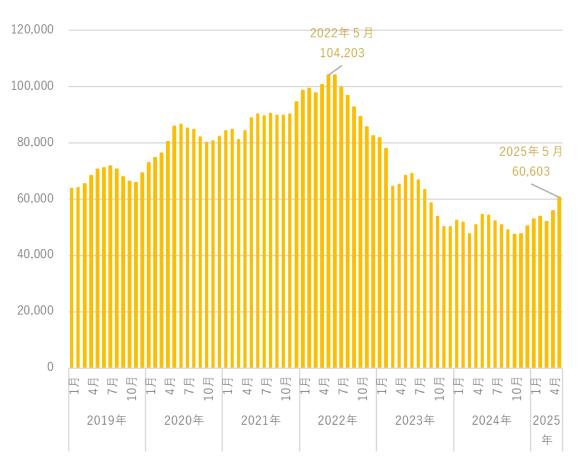
- ■乳製品相場は高値圏での推移が継続する見込み
- ■乳価値上げなどによる消費への影響を注視
- ■猛暑・離農による生乳生産量への影響

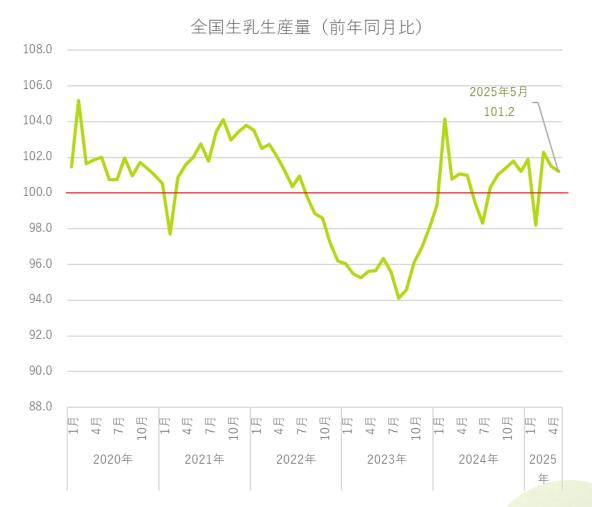
国内乳業界の事業環境

Lacto Japan

- 足元の生乳生産量の増加により、脱脂粉乳在庫は5月には6万トンに
- 8月に予定されている飲用乳価の値上げは乳製品の消費を冷やす可能性もあり動向は注視



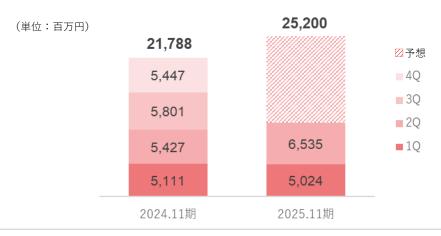




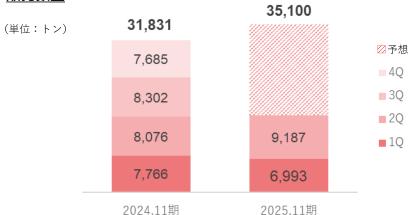
(出典) 牛乳乳製品統計調査(農林水産省) より作成

食肉食材部門

<u>売上高</u>







(注) 売上高、販売数量ともに数値の表示は、小数点以下切捨て。





- ■前期実績および期初計画を上回る販売実績
- ■第2四半期には状況が改善し、北米産豚肉の販売が回復
- ■鶏肉加工品の販売が好調に推移

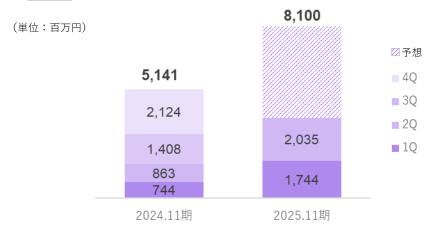
- ■引き続き、加工食品の販売を強化
- ■フローズンポークの販売強化
- ■4月より取扱いを開始した香辛料と既存商売のシナジー効果に期待

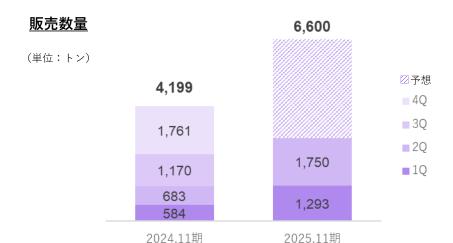




機能性食品原料部門

売上高





上期の事業概況

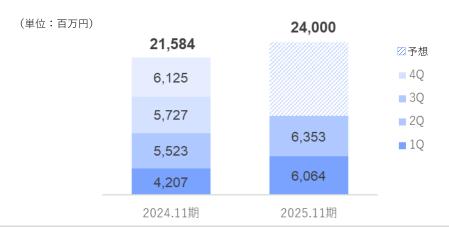
- ■世界的な高たんぱく需要を背景に原料相場は高値で推移
- ■引き続き、国内プロテイン需要は高く販売は好調を維持
- ■総合的な製品設計提案などにより新規取引が拡大

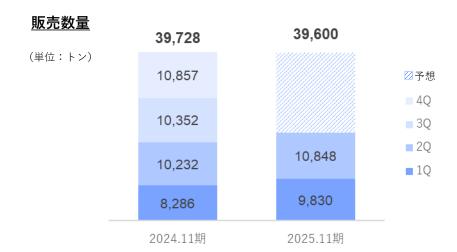
- ■プロテイン原料以外の機能性原料の販売を強化
- ■高たんぱく原料は、既存用途向け以外の拡販を目指し、 食品メーカーへの提案強化



アジア・乳原料販売部門

売上高





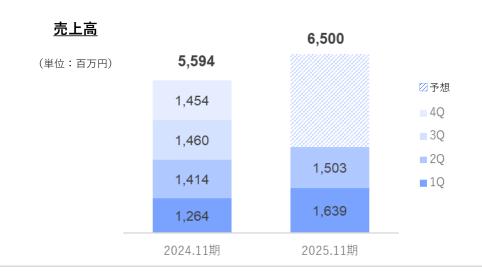
上期の事業概況

- ■フィリピン・タイ・マレーシア現地企業向け商売増
- ■インドネシアにおいて新規サプライヤーとの取引増加
- ■日系企業向け高付加価値商売の増加

- ■さらなる取引拡大を目指し、海外拠点間の連携を強化
- ■引き続き、現地企業向け営業強化
- ■日本国内向け粉乳調製品の需給動向に注視



アジア・チーズ製造販売部門



<u>販売数量</u>

(単位:トン)



上期の事業概況

- ■顧客ニーズに合った高付加価値製品を開発し、販売数量増加
- ■主にベーカリー・加工食品・外食産業向け商売が増加
- ■原料コスト等を反映した価格改定を実施。利益率改善に寄与

- ■現地競合他社品との差別化を図り、さらなる拡販を目指す
- ■収益性を重視した販売戦略
- ■シンガポール新工場は、2026年11月期に稼働開始予定

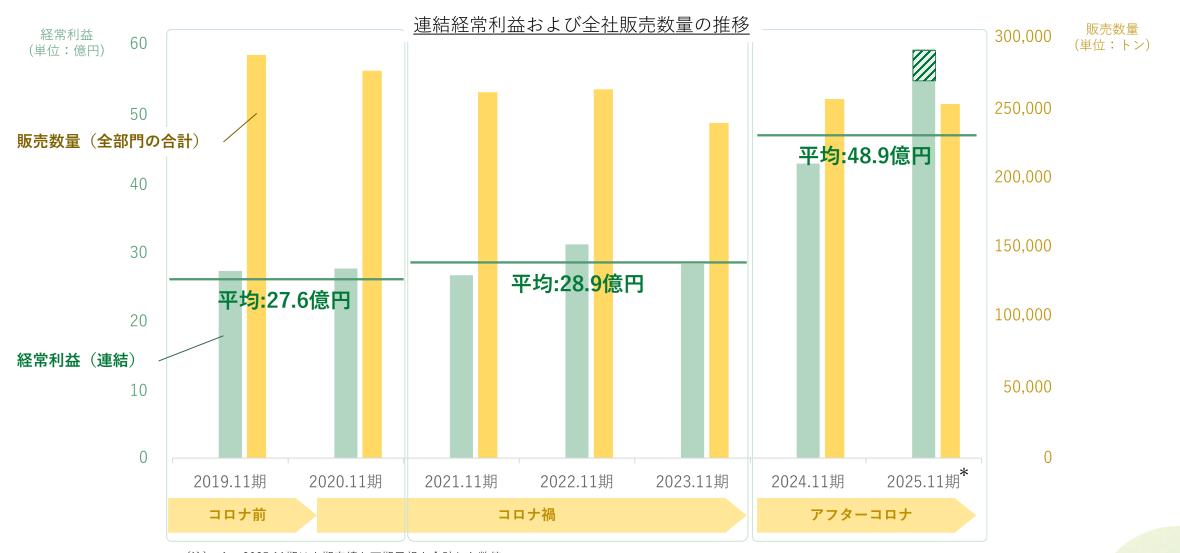


03 乳原料・チーズ部門の利益拡大に向けた取組み

経常利益水準の推移

Lacto Japan

● 全社の販売数量が伸び悩むなか、連結経常利益の水準が向上

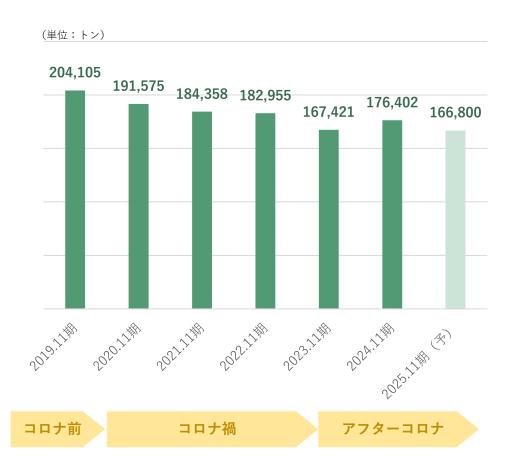


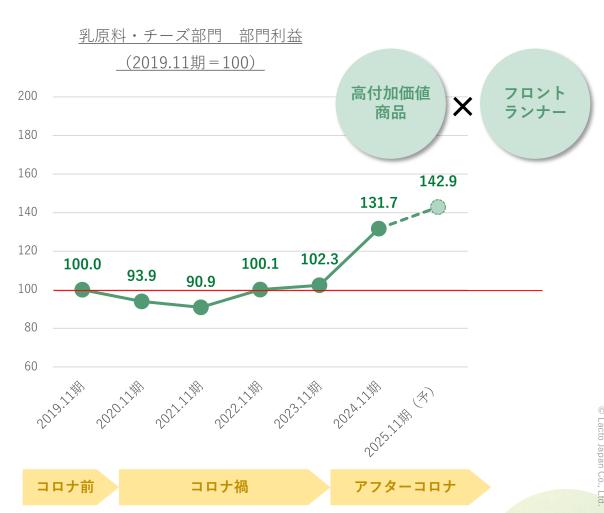
乳原料・チーズ部門の業績推移



- 乳原料・チーズ部門の販売数量はコロナ前の水準までは戻っていないものの、部門利益はコロナ禍後、大幅に増加
- 「高付加価値商品」の提案力と「フロントランナー」としての調達力・供給力が収益改善の背景

乳原料・チーズ部門 販売数量





(注) 部門利益は参考地(社内の管理会計上の利益で経費考慮前の利益額

乳原料・チーズ部門の利益拡大の背景









多くは日本国内では製造されていない乳原料

ホエイたんぱくやカゼインたんぱく等を 特殊加工した原料など 新しい原料を誰よりも早く提案・販売





高付加価値製品の供給が可能なサプライヤーの確保

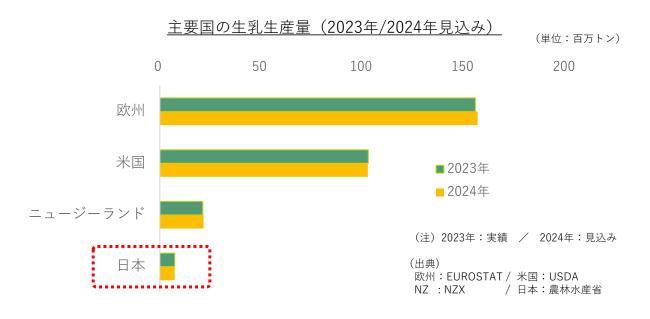
ユーザーの開発部門との対話・提案力

高付加価値商品は輸入品が中心

Lacto Japan

- 少ない生乳生産量
- 高い乳価
- 関税

日本では 高付加価値商品の開発・大量生産が難しい



主要国の乳価(2025年6月時点)

生産国	乳価
日本	¥ 108.6/kg
ドイツ	¥ 85.9/kg
アイルランド	¥ 85.4/kg
米国	¥ 66.7/kg
ニュージーランド	¥ 74.8/kg

(出所) 乳価はラクト・ジャパン調べ

乳原料・チーズ部門のさらなる成長に向けて



乳原料・チーズ部門の中長期的な成長に向けては「高付加価値商品の販売増」に加えて、 「調達力の強化」、「アジア事業の成長」も重要なカギ

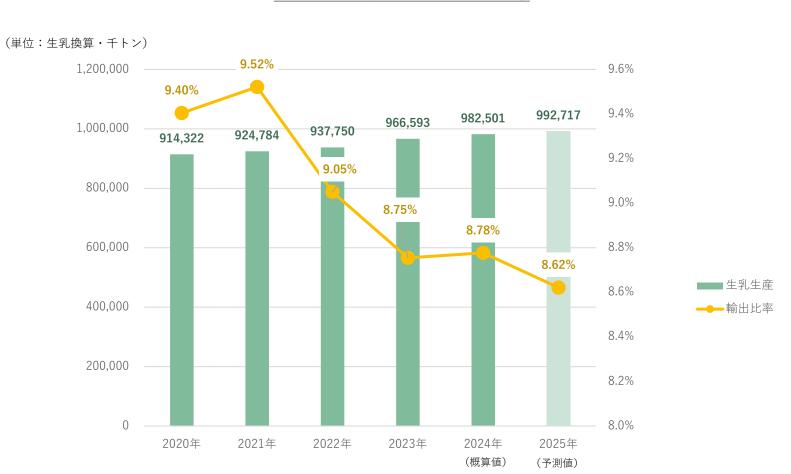


世界の乳・乳製品生産と輸出の状況



● 世界の乳・乳製品の生産量は増加が続くが、輸出比率は低下傾向

世界の乳・乳製品生産量と輸出比率



アジア事業の 成長 高付加価値商品 の販売増

(出典) 「主要国乳・乳製品生産量」および「主要国乳・乳製品輸出量」(Jミルク)より

主要輸出国の生乳生産量

Lacto Japan

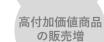
アジア事業の

成長

主要輸出国の生乳生産量の伸び悩みが背景のひとつ

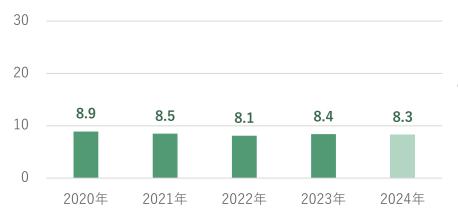






調達力の強化





豪 州

(注) 2023年まで:実績/ 2024年: 見込み

(出典)

欧州:EUROSTAT 米国:USDA

NZ : NZX

豪州: DAIRY AUSTRALIA

調達力の強化とアジア事業成長の関係

Lacto Japan

● アジア・チーズ製造販売事業の拡大が、調達力強化にもつながる



の販売増





● 顧客のニーズへの対応

調達力販売力

- サプライヤーニーズへの対応
 - ✓ 販売数量
 - ✓ 継続性
 - ✓ 商品 … 特に、「チーズ」



- ✓ 国内のチーズ販売網
- ✓ アジアのチーズ販売網
- ✓ 自社工場でのチーズ製造・加工



アジア・チーズ製造能力の拡大



● 市場の成長に合わせ、チーズの製造量を増加すべく新工場を建設中



高付加価値商品 の販売増

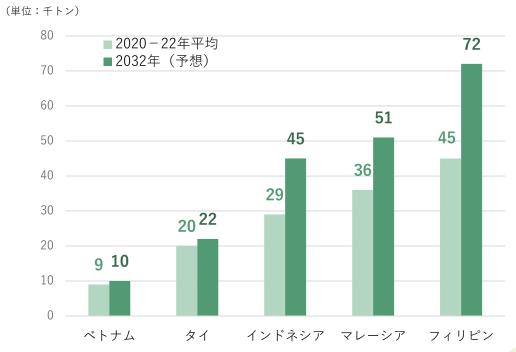
工場の概要

所	在	地	センバワン地区 セノコ
生	産	量	最大キャパシティ 1万トン
床	面積		約6,500㎡
稼	働開	始	2026年11月期~

新工場の所在地



アジア地域(アセアン諸国)のチーズ消費量の予測



(出典) 「OECD-FAO 農業アウトルック 2023-2032」より一部抜粋

シンガポール新工場の稼働に向けたスケジュールのイメージ



● 新工場稼働に向けて準備は順調に進捗

2026.11期 Q1

2026.11期 Q2

2026.11期 Q3

2026.11期 Q4

2027.11期

竣工

製造ライン設置開始

(テスト稼働)



一部製品の製造開始(第1フェーズ)※旧工場を並行して製造



製造規模拡大 (第2フェーズ)



製造規模拡大 (本格稼働)

移管完了

各種認証 申請



各種認証 取得

> 旧工場のライン 稼働停止





ご注意事項

本資料には、当社の戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。

これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

経営環境の変化など、さまざまな要因により変更されることがあります。

あらかじめご了承ください。

